

企業名： 積水ハウス (1928)

レポート名： Value Report 2023

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

積水ハウスは根本哲学として「人間愛」を、基本姿勢として「真実・信頼」を、事業の意義として「人間性豊かな住まいと環境の創造」を、そして目標として「最高の品実と技術」をそれぞれ掲げている。さらに、同社のグローバルビジョンは『「わが家」を世界一幸せな場所にする』だとされている。なお、同社が考える「幸せ」とは、お客様の幸せ、社会の幸せ、そして従業員の幸せのことである。これの実現のために同社はコーポレートストーリーを創業から積み上げてきている。Phase1(1960-1990)の安全・安心、Phase2(1990-2020)の快適性・環境配慮に続き、2020年から現在はPhase3の健康・つながり・学びに入っている。事業拡大・成長を加速させることでグローバルビジョンを実現する会社を目指していることが理解できる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

積水ハウスのコアコンピタンスは積水ハウステクノロジーを駆使した技術力、業界一の累積建築戸数を誇る強固な顧客基盤、そしてそれを実現する施工力である。さらに、研究開発から商品開発・設計・技術・営業、調達、生産、施工、アフターサービスまですべてを積水ハウスグループが担うことで、顧客の幸せを実現する価値を最大化する独自のバリューチェーンもコアコンピタンスとして位置づけられている。とりわけ、グループが連携することで得られるバリューチェーンは、同社の競争優位性を裏付ける大きな要因であると感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上記のコアコンピタンスに加え、それを進化・拡張するために新技術であるIoT、AI、Robot、Blockchain と、Open Innovation である産学連携共同開発、ベンチャー投資、アライアンス、M&A を取り入れていくという。

同社を取り巻くリスクについては Value Report 2023 の中で言及があり、気候変動、生物多様性保全、資源循環、経済・政策の変動、グローバリゼーション、人口動態の変化、技術革新の計7つが挙げられていた。そのそれぞれについて具体的なリスクシナリオが検討されており、それに対する機会創出の具体例が掲載されていた。

以上のことから、積水ハウスはコアコンピタンスを進化・拡張していく術を考えているとともに、将来のリスクについても詳細に分析しており、その競争優位性には持続性があると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

積水ハウスは、成長ドライバーを人的価値の向上だとしている。同社が定める人材価値とは、「従業員の自律×ベクトルの一致」のことである。同社は企業価値の向上のために人材価値の向上を重要視している。具体的には、従業員の自律実現のためにキャリア自立支援、DE&Iの推進、多様な働き方の推進、幸せの基盤づくりを行っている。また、ベクトルの一致のためには、企業理念と戦略を浸透させるリーダー育成や戦略に応じた人員確保と適正配置に取り組んでいる。このように、同社は人的価値の向上のために様々な施策を行っているため、この会社に勤務することで自身の人的資本の価値向上を達成できると考える。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

積水ハウスの統合報告書を読んでみて、正直に言って一番感じたのはその長さである。「本レポートは、積水ハウスのコーポレートストーリーを紐解き、マテリアリティ特定のプロセスから積水ハウスグループの企業価値、存在意義をご理解いただくとともに、価値創造プロセスを通じて、積水ハウスグループの目指す姿を明確に示し、事業や取り組みをご理解いただくことを第一の目的に編集しています。」とあるが、ここまで長いものになってしまうと、かえって同社が伝えたいことが分かりにくくなってしまわないかという懸念がある。目次や関連するページにすぐに移動できるようになっている点は、読むうえで助けになった。